

県議選は無投票当選 小笠原正男氏が連続



任期満了に伴う県議会議員選挙は四月三日告示され、同日立候補の届け出が締め切られました。

この結果、白根市選挙区では、現職の小笠原正男氏が無投票で四期連続当選を果たし、今後四年間、白根市選出の県議会議員として、県政の場で活躍されることになりました。

〔小笠原正男氏 62歳〕
・自由民主党現。当選四回。
・市内山崎興野五五。会社役員。

農地銀行を設置

四月十四日、市役所で「農地銀行推進役会議」が開かれ、会議に先立って市長から同銀行の推進役四十八名と相談役十名に委嘱状が交付されました。

農地銀行（会長・長谷川昭二農業委員会会長）は、農地の一元管理を図り意欲と能力のある中核的担い手農家を育成すること——を目的に、四月一日から新規事業と



して取り組まれた制度です。

この日は、同事業を進めるための骨格である規程、運営要領などを決めたと運営委員を選任しました。同事業についての問い合わせは、農業委員会農地係（☎209）へどうぞ。

北部工業団地に 記念碑を建立

北部工業団地の人口に、同工業団地の造成工事の完成を記念して「記念碑」が建てられ、四月二日、関係者で除幕式が行われました。

この記念碑は、同団地の地権者で結成した白根市北部工業団地竣工記念碑建立の会（岡田誠次会長）が「団地造成に協力したことを将来に伝えたい」と建てたもので、参列者はみごとな碑に感慨深そうに見入っていました。

同団地は、六十年九月から造成工事を行い、昨年十二月にすべて完成。総面積は二十二・八畝、関係する地権者は四十有余戸で、二

話題

まち

社が操業開始、現在三社が工場を建設中です。



受講生が自ら進める農大講座

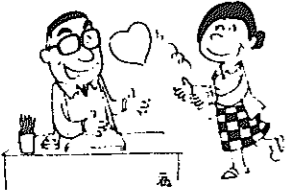
四月十五日、市農業大学講座の開講式が農業会館で開かれました。本年度は市内の十八歳から二十九歳までの農業後継者二十八人が参加し、稲作や果樹、総合などの各コースで研修を積んでいきます。今回は、仲間づくりをさらに進

めるため、全員がしっかりと受ける共通講座が新たに設けられました。また、研修内容が基礎的なものから実践的なものになり、学習方法も、これまでの講義を受ける立場から、各コースで研究テーマを持って自主的に取り組んでいくことになりました。



思いやり

思いやりの表現は、身近な人に対するほど難しいようです。例えば家族の場合、ついうっかり思



り、気持ちはあつても妙に照れてしまつて、ためらいがちになつてしまいます。

しかし、家族のさりげない思いやりが、家庭に安らぎとぬくもりをもたらすことも確かです。

思いやりのキャッチボール

家族に伝わった

奥さんの心遣い

Nさんは執筆を業としています。いつものところからか、机上の筆立てにある鉛筆が、いつもきれいに削られて、すぐ手に取れるようになっていました。それはNさんの留

守中に奥さんが見せた心遣いだったので。Nさんはほのぼのとした気持ちで机に向かうことができ、仕事がかどると喜んでいきます。

奥さんの心遣いに触れたNさんは、「自分のできることで思いやり

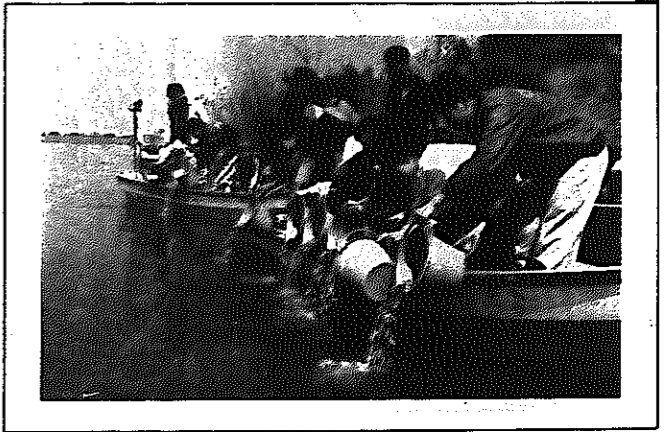
りのキャッチボールをしてみたい」と思いました。そんなとき、旅先のホテルのトイレで、トイレレットペーパーの手もとの部分が三角に折り込んで使えやすくしてあることに気づきました。以後、Nさんは家庭の中でこの方法を励行するよ

4年後にまた捕まえない

サケの稚魚放流

信濃川漁協白根支部では、三月二十九日、中ノ口川の根岸橋下流で、恒例のサケの稚魚放流を行いました。

今回は、対岸の味方村七穂小学校の児童らも参加し、新潟市のふ化場から体長約三センチの稚魚約四十五万匹が運ばれると、かわるがわる川に放していきました。先生は「子供たちにぜひ見せたいと思って連れてきました。卒業式のイベントとしてやるのもおもしろそう」と話しながら「今度は捕まえないようにか？」と児童に声をかけていました。稚魚が大きく育ち、再び川に戻ってくるのは四年後。当日はカモメが見当たらず、被害に遭わずにすんだようです。



白根柔道教室が優勝

三月二十九日、黒崎町で開かれた、第五十一回白根地方柔道大会で、白根柔道教室Aチームが、小学生団体の部で優勝し、関係者は大喜びです。

同柔道教室は、同大会で、五年ぶりの優勝で、今回で六回目となりました。市内関係者の成績は次のとおり。

▽小学生の部（団体） ①白根柔道教室A ②根岸スポーツ少年団A、▽同（個人・高学年の部） ①五十嵐茂雄（白根） ③外川英幸（同）、佐久間忠（同）

▽同（同・低学年の部） ②小林裕司（同）

▽中学生の部（団体） ②白根第一中学校A

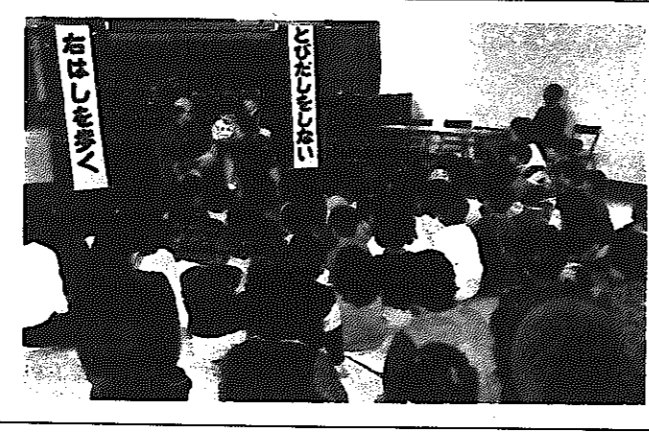
▽同（個人） ②鈴木久（一中）



視覚で親しむ交通安全

新飯田 白寿大学

三月二十三日、新飯田地域生活センターで「幼児とお年寄りの交通安全教室」が開かれました。これは毎年春先になると、お年寄りや子供が外に出る機会が多くなり、交通事故の危険も増すことから、地区公民館が白寿大学の活動の一つとして開いたもので、新飯田保育園の園児も、お昼寝返上で参加。当日は県警交通安全教育車「ゆきつばき号」が訪れ、お年寄りや園児ら約百人は、交通巡視員の腹話術やアニメ映画などで楽しみながら交通ルールを学んでいました。ふだんは子供向けの腹話術も、お年寄りのために内容をじっくり変え、今回が初めての公開です。「いい経験になりました」と巡視員。



感謝の心が出発点

この話を聞いて、思いやりとは感謝の心が出発点だと思いました。「いつもすまないね。ありがとう」という感謝の気持ちが行動となつて現れるのが「思いやり」ではないでしょうか。

「思いやりのキャッチボール」を身近な人と楽しんでみませんか。あなたの心は、きっと豊かに和やかさを増すと思います。そして、家庭に温かい灯がともるものと思

淑徳短期大学教授、前全国ボランティア活動振興センター所長

木谷宜弘